

みなとぴあボランティアレター 特別号[☆]

anniversary

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2023.8

ボランティアレター50号を記念した特別号！ここでは、ボランティアさんからの声をお届けします。

鎌田誠司さん「企画展近世新潟町展」ボランティア解説に参加して

今回、はじめての試みとして企画展の解説をボランティアの皆さんにお願いしたいとの小林副館長からの依頼があり、約20人のボランティアが事前研修を受けました。本来は日曜だけの解説を土、日、祝と幅を広げて実施して、より多くのボランティアが解説に参加できるように配慮されました。本番解説会には、15名の方が参加されたように思います。通常の常設や敷地の案内とは違った緊張感があった気がします。「近世新潟町」江戸時代の内容は常設でも展示されていますが、今回の企画展ではそれより深掘りされた内容が展示されていました。江戸時代の新潟の一大イベント湊まつり、新潟町のはじまりや新潟湊（津）の位置の変動、古新潟町から現新潟町への移動、江戸時代の新潟の町並（長谷川雪旦の町並）、川村修就の家族に紹介した新潟の風物（蟹の手振り）、江戸時代の新潟町全体の俯瞰図の中の水刳杭（治水設備）、地下に広がる江戸時代新潟の遺跡（遺構）で江戸時代の暮らしが地域によって区別されていたこと、地盤沈下対策をとりながらの建築跡の展示、江戸時代の使用された備前焼の数々、このような解説をしたことで、今回解説を担当した私を含めて解説に参加されたボランティアのみなさんはスキルアップできたと確信しています。今後は常設や敷地の案内になにげなく活用して来館者に新潟町の歴史を伝えていければ良いと思っています。また、ボランティアの活動を広げるためにも、再度ボランティア解説日を設けていただきたいと思います。



今回の企画展の解説会に参加されたボランティアの方はどこか生き生きと解説に臨まれていた感じがします。今回残念ながら参加できなかった方も、次回のチャンスがあれば是非参加してもらいたいと思います。人生死ぬまでチャレンジです。このボランティアレターを読まれて発奮される方がおられれば幸いです。

野沢俊明さん 敷地ガイドでの来館者からの「一言」について

私たちボランティアガイドにとって活動してよかったと思うことの中に、ガイド終了後の来館者からの「新潟市をより理解できた」、「非常に分かりやすかった」、「ただ見学するのと違い、楽しく理解することができた」等々の感想を話していただくことが多くあるのではと思います。

上記のように来館者からの感想の言葉ではなく、全く異なる視点で言葉をかけられた経験が半年ほど前にありました。私にとって、今後の活動に対する大きな動機づけになりましたのでお話をしたいと思います。それは、2022年11月3日（文化の日）の新潟税関支署150周年記念との共同イベントの「ミニボランティアフェスティバル」で旧新潟税関庁舎を中心とした敷地ガイドをした際のことです。



受付で案内ガイドを依頼された来館者は、親子（母さんと小学高学年の男子）の方です。その来館者から「実は主人の仕事は、税関職員です。入職後の配属が東京税関で、現在、新潟税関支署に単身赴任しています。主人から新潟での150周年記念イベントと旧新潟税関庁舎を見学しなさい」と言われて来館されたそうです。

旧新潟税関庁舎をガイドする中、「幕末、アメリカなど5か国との修好通商条約を締結し、そして国内に5つの開港所に函館・横浜・神戸・長崎・新潟が決められました」と伝えたところ、その来館者が、「主人は入職時、横浜税関の

勤務が希望でしたが、東京税関勤務になり、残念だと言っています。私も横浜がいいのですが…」と話されました。ご夫婦とも歴史のある国際港であり、独特な雰囲気のある横浜がお好きのようでした。

さて、話をしたかったのは上記のことではなく、ガイドの後半の旧第四銀行住吉支店のガイドの終了時に、この来館者から「素晴らしいお仕事ですね！ボランティアですので、仕事と言うのはおかしいかもしれませんが…。やはり素晴らしいお仕事だと思います！」言われて、今までの来館者からのガイドをしていただいて良かったとの言葉とは評価の視点が全く異なり、表現することができないインパクトがありました。この言葉から、想像以上に、来館者は自分をよく見ているのではと思い、襟を正してガイドをしなければと思いました。

この言葉（素晴らしい仕事＝活動）に負けないように、立ち振る舞いに留意し、常に工夫をしてボランティアガイド活動をしなければと自分自身に言い聞かせています。

松田守弘さん みなとびあボランティアをやってみて

新潟市歴史博物館へのボランティアガイドにおきまして、たいへん充実した1年を過ごさせていただきました。コロナ禍もしいに終息に向かい、5月下旬より常設展示室と敷地のガイドが再開されました。

活動の中で、お客様からいただく質問に対して私自身の知識が不足している部分は、館の学芸員の皆様に確認を取ったり、自主学习を行ったりすることで解決しております。その結果、次回の説明時にはより正確でかつ充実したガイドトークを提供することができるようになりました。さらに、お客様からお礼の言葉をいただくことが励みとなっており、より一層やりがいを感じております。

先日の経験として、日本語の話せる外国の方から、説明の終盤になると「先生、先生」と呼ばれたとき、一瞬とまどいましたが、それは悪い気持ちではなくむしろ喜ばしい事でした。私の紡ぐ説明が、お客様にとって学びの場であり、尊敬する存在として認識していただいているということを示してくれたように感じられました。

これからも、お客様にとって「来て良かった」と思ってもらえるよう、さらなる磨きをかけたガイドトークを目指し、楽しみながら活動してまいります。私自身も、知識を深めることでより魅力的なガイドとなり、市歴史博物館を訪れる方々に貴重な体験を提供できると信じております。



霜村和之さん みなとぴあガイドでの経験と再確認すべきこと



2020年2月29日、新潟市でコロナウイルス感染者が初めて確認されたその日、わたしはみなとぴあで1回目のボランティア研修を受けていました。感染のことが報告され、研修はすぐに中止。その後の研修も延期となりました。それでも何とか研修も行われ、11月7日、ガイドデビューをしました。

それから2年半余りがたち、その間102回(7月現在)ガイドをさせていただきました。1,000人ほどのお客様との出会いがあったことになるのでしょうか。ありがたく、そして貴重で楽しい体験をさせていただきました。

感謝の気持ちを込めて、これまでにお客様からいただいたたくさんの質問、疑問点等(常設のみ)からいくつか紹介して、これからも研修を重ねていくことを再確認したいと思います。

●千曲川の方が長いのに、なぜ日本一長い川は信濃川なのか ●角田山と弥彦山か(6,000年前の想像図) ●和同開珎は今のお金では? ●古津、新津、金津は津(湊)があったところか ●沼垂湊が一番古いのではないか(淳足柵関連) ●「新方」がどうして「新潟」になったのか ●川蒸気船で長岡までの所要時間 ●「よろづよばし」がなぜ「ぼんだいばし」になった? ●信濃川を埋め立てた土砂はどこから ●潟と湖、沼、池はどう違うのか ●ハサかけするときは脚立ではなくてはしごなのではないか(魚沼でははしごを使っていたとのこと) ●新潟特産の野菜が現在あまり見られなくなったのはなぜ ●大河津分水路の川幅が河口へ向って広がっていないのはなぜか(即答できたもの、答えられずに後日解決したもの、未だに解決できていないものが含まれています)。

岩間正吉さん みなとぴあの四季をボランティア仲間を楽しむ 2008~2012年のフォトヒストリー

〔春、spring〕



2008-5-25 「下町の宝物、再発見ウォーク」

ボランティア同士の交流を深める。



2009-4-13 「みなとぴあ、初のボランティアバーベキュー」

〔夏、summer〕



2009-7-31 「みなとぴあボランティア納涼祭」

なつかしき甘粕館長と共に!!



2009-8-21 「みなとぴあ水車体験会(学芸員企画)」

田植え農家の水の給排水作業の苦勞を体験できる。

【秋 Autumn】



2009-9-20 「みなとびあ新潟湊 140 周年記念行事」

野点茶会にボランティア大応援!!

- ・野点みて ゆかしき色に 笑(えみ) ならん
- ・さそわれて 金木犀の 匂ふみち

【冬 Winter】



2010-12-23 「みなとびあ親子餅つき大会」

ボランティア総出演!!



2012-4-23 「ボランティア総会終了後、カーブドッチにて」

小林館長と共に、みなとびあの夜景を楽しむ!!



【編集後記】

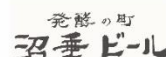
今回は特別号ということで、ボランティアのみなさんから活動の感想をご投稿いただきました。鎌田さん、野沢さん、松田さん、霜村さんの投稿からは、日々の常設展示室ガイドや企画展示室のガイドでのそれぞれに感じているやりがいをお知らせいただきました。また、岩間さんの投稿からは、展示ガイドや体験プログラムのサポート以外にも、様々な活動を 19 年間実施してきたことがわかりました。来年は、みなとびあ開館 20 周年を迎えるとともに、みなとびあボランティアも 20 年目となります。今後、さらに活動を盛り上げていくことができるよう、様々な面でご協力いただければ幸いです。(鈴木)

2023.6月現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

NST 日和山五合目 **北陸ガス** **本間組** **田中屋本店** **新潟「にっくち**



(順不同)